

# 日本テスト学会第 20 回大会 開催のご案内

## 「学際的に課題解決するテスト学」

新型コロナウイルスの影響で、第 19 回大会がオンライン開催になりましたが、2022 年 4 月段階で収束が見えない中、記念すべき第 20 回大会もオンラインで開催することになりました。会期は 8 月 26 日（金）～9 月 4 日（日）の 10 日間です。貴重な会員交流の場、研究成果発表の場が 2 年連続でこのような形で開催となりましたが、大会実行委員会では万全の準備をして参りますので、ご寛恕いただければ幸いです。

新型コロナウイルスの流行が始まって 2 年ほど経ち、これまでテスト関係者、特に、運営に関わっておられる会員の皆様は、その実施に向けてご苦労があったのではないかと存じます。公的試験や企業などの採用試験などで、テストセンター形式などの集合形式で運営しておられるテスト関係者の方々や、対面で面接を実施しておられたテスト関係者の方々は、そもそも人が集って実施できない状況が続く中、感染症対策に追われたことと存じますし、大学入試では、オープンキャンパスのオンライン実施に始まり、試験当日の感染者、濃厚接触者の受験者への対応、また、大学院入試では、留学生などが来日できない中、急遽、オンライン実施への切り替えにご苦労された関係者の方も多かったのではないかと存じます。その中で、CBT などのこれまで実施に二の足を踏んでいたテスト実施方法についても、それを受け入れる風土や、デバイスの普及も進んできたのではないかと拝察致します。コロナ禍に端を発した社会の変化ですが、テストを巡る状況については、隔世の感がする次第です。こうした社会状況においては、テスト理論やテスト運営の観点から、日本テスト学会としても会員の叡智を集めて情報を発信し、学会のプレゼンスを高めていく絶好の機会であると考えます。

そのような社会状況の中、本大会のメインテーマは、「学際的に課題解決するテスト学」です。テスト理論を専門にする会員を中心にテスト運営にも携わる様々なテスト関係者が集う本学会の特性を活かして、現代テストが抱える課題の解決への方策を学際的に積み重ねることを目指す大会としたいと思います。本大会では、3 つのシンポジウムが企画されています。1 つ目は、テスト学会としては従来あまり取り上げられてこなかった、テスト項目の著作権と問題公開／非公開に関するテーマで、公開シンポジウムを企画しました。2 つ目は、研究委員会が企画する学力テストの本質を改めて見直すシンポジウムです。筆記テストは本当に「古い」のかという問いを出発点に、「育成すべき資質・能力」を筆記による学力テストで評価するために、どのような工夫がなされているのかについてご議論いただきます。3 つ目は、大会実行委員会が企画する、テスト学におけるオープンサイエンスに関するシンポジウムです。研究結果の再現性の低さや疑わしい研究実践（QRPs : Questionable Research Practices）を巡る他研究領域の先進事例を伺いながら、テスト学におけるオープンサイエンスのあり方についてご議論いただきます。これら 3 つのシンポジウムはリアルタイムで、9 月 4 日（日）に開催されます。また、会期中の 10 日間、企画セッション（一部を除く）、一般セッションは、オンデマンドで実施されます。

本大会はオンライン大会となりますが、実行委員会としては、オンラインの特徴を活かし、これまでテスト学会と縁のなかった人たちにもご参加頂き、テスト学の必要性を認識していただくことを目指して、努力したいと考えています。ぜひ、テスト学会大会に参加していただくようお願い申し上げます。

日本テスト学会第 20 回大会実行委員長

九州大学／大学入試センター教授 木村拓也

## 1. 開催方法と日程

本大会は講演・質疑応答を含め全てオンラインで実施します。公開シンポジウム、研究委員会企画シンポジウム、大会実行委員会企画シンポジウム、一部の企画セッションは Zoom ウェビナーを用いたリアルタイム講演として実施し、その他のセッション（企画セッションと一般研究発表）は抄録原稿と講演動画を一定期間大会ウェブサイト上で公開するオンデマンド形式で実施します（ただし、一般セッションの講演動画掲載は任意です）。リアルタイム講演以外の発表に対する質疑応答は、会期中にオンライン・非同期形式で実施する予定です（実施方法は現在検討中）。各種日程は以下の通りです。

- リアルタイム講演配信日 : 2022年9月4日（日）
- 抄録原稿・講演動画公開期間 : 2022年8月26日（金）～9月4日（日）（10日間）
- 質疑応答期間 : 2022年8月26日（金）～9月4日（日）（10日間）

## 2. 内容

### 2.1. シンポジウム

公開シンポジウム1件と研究委員会企画シンポジウム1件、実行委員会企画シンポジウム1件を予定しています。公開シンポジウムのみ、参加費無料でご参加いただけます。

#### 【公開シンポジウム】テスト項目の著作権及び問題公開／非公開を巡る問題

公的なテストの運営において、テスト項目の著作権はさまざまところで問題になる。1つは、素材文に対する著作権処理であり、もう1つは、テスト問題冊子の問題公開／非公開を巡る議論である。従来、テスト学会ではあまり扱われてこなかったこの問題に、九州大学法学研究院教授で知的財産法を専門とする小島立氏を基調講演にお迎えして公開シンポジウムを実施する。まず、企画者の木村から、米国 ETS と教育産業の間で起こった裁判事例、日本におけるテスト問題冊子の問題公開／非公開に関する判決事例などを紹介した上で、基調講演として、小島教授にテスト項目に関する著作権の問題について、法律家の観点から整理いただく。続いて、若林昌子氏から、論文賞を受賞された「日本におけるわが国の公的試験における試験問題公開の判断基準—情報公開制度における事例—」を振り返っていただいた上で、その後の状況や所感をご披露いただく。また、寺尾尚大氏から、この問題に関係する、項目反応理論によるテスト等化における項目パラメータドリフトの問題について先行研究事例を含めてご紹介いただく。以上、法律家及び様々なテスト関係者の観点から、テスト項目の著作権及び問題公開／非公開を巡る問題を学際的に考えていく。

**企画・趣旨説明** 木村拓也（九州大学／大学入試センター）

**司会** 林 篤裕（名古屋工業大学）

**基調講演者** 小島 立（九州大学）

**話題提供者** 若林昌子（一般財団法人 知的財産研究教育財団）、寺尾尚大（大学入試センター）

**開催方法** リアルタイム配信（Zoom ウェビナー）

**開催日程** 2022年9月4日（日）

#### 【研究委員会企画シンポジウム】学力テストの本質を改めて見直す：伝統の継承と発展

GIGA スクール構想に基づく学校 ICT 環境の整備が急速に進む中、CBT や学習ログを活用した学習評価が期待されるなど、学習評価の方法についても革新が進められている。また、多様な評価方法の

例としてパフォーマンス評価やポートフォリオ評価が挙げられることが多く、伝統的な筆記型の学力テストは、ともすれば「古い」ものと受け取られてしまいがちである。しかし、深い理解や思考力等を評価するために、筆記型の学力テストも発展を遂げてきた。また、初等中等教育の学校現場では現在も、筆記型の学力テストが中心的に行われている。

こうした背景から本企画では、新しい学習指導要領が、小学校で 2020 年度、中学校で 2021 年度から全面実施、高等学校では 2022 年度入学生から年次進行で実施されることを踏まえ、新学習指導要領で示された「育成すべき資質・能力」を筆記による学力テストで評価するために、どのような工夫がなされているのかについて、全国学力・学習状況調査、大学入学共通テスト、標準学力テストの開発に関わる国内の実務家・研究者に話題提供をしていただく。

**企画** 研究委員会

**司会** 鈴木雅之（横浜国立大学）

**話題提供者** 小野賢志（大学入試センター）、根木 厚（東京書籍株式会社）、  
納富涼子（応用教育研究所）ほか調整中

**指定討論者** 石井秀宗（名古屋大学）

**開催方法** リアルタイム配信（Zoom ウェビナー）

**開催日程** 2022 年 9 月 4 日（日）

### 【実行委員会企画シンポジウム】テスト学におけるオープンサイエンス

オープンサイエンスとは、コンピュータネットワークを活用して研究成果をオープンに共有し、研究を効率よく発展させようとする試みである。近年、実証的研究を行っている学問領域において、研究結果の再現性の低さや疑わしい研究実践（QRPs：Questionable Research Practices）が問題となっており、その解決策の一つとして研究におけるオープンサイエンスへの対応がある。本学会においても、日本テスト学会誌にオープンサイエンス・バッジが導入され、オープンサイエンスへの対応が進んでいる。しかしながら、他方でテスト学においてオープンサイエンスが十分に活用されているとはいえない現状もある。本シンポジウムでは、オープンサイエンスを積極的に研究活動に取り入れている研究者から実践例を含めた話題を提供いただき、テスト学におけるオープンサイエンスへの対応に関わる課題や今後の方向性について議論を行う。

**企画** 第 20 回大会実行委員会

**司会** 中村知靖（九州大学）

**講演者** 岡田謙介（東京大学）、山田祐樹（九州大学）、国里愛彦（専修大学）

**開催方法** リアルタイム配信（Zoom ウェビナー）

**開催日程** 2022 年 9 月 4 日（日）

## 2.2. 一般研究発表

<発表形式>

- 抄録原稿を大会ウェブサイト上に 2022 年 8 月 26 日（金）～ 9 月 4 日（日）の 10 日間公開することで発表とします。なお、原稿は大会参加者のみが閲覧できる限定ページ上に公開されます。
- 公式発表として認められるためには、「発表者のうち少なくとも 1 名は本学会会員であること」と「抄録原稿を提出すること」の 2 つの条件を満たす必要があります。
- 希望者は抄録原稿に加えて講演動画も提出することが可能です。提出された動画は、大会サイト上

で抄録原稿とともに大会参加者に限定公開します。動画の公開には **Vimeo** の使用を予定しています。講演動画は **15 分程度**としてください。動画の作成は **Zoom** などを利用して行なうことができます。なお、大会実行委員会では動画作成に関するサポートはできないことをご了承ください。

- 抄録原稿の提出は事前に参加申込みと一般研究発表申込みを済ませていただいた上で、**7 月 1 日（金）**までに大会ウェブサイト上の専用フォームからご提出ください。締め切りの延長はありませんので締め切り厳守をお願いします。講演動画の掲載も希望する方は、**7 月 1 日（金）**までに大会ウェブサイト上の専用フォームから動画ファイルをご提出ください。動画ファイルの形式や解像度などの詳細は、追って大会ウェブサイト上に公開します。

#### <質疑応答>

一般発表に関する質疑応答は抄録原稿公開期間中にオンライン・非同期形式で行う予定です。プラットフォームとしてはスラック (**Slack**) の利用を想定しています。詳細が決まりましたら大会ウェブサイト上でお知らせいたします。

### 2.3. 企画セッション

- 企画セッションの発表は、大会ウェブサイト上に **2022 年 8 月 26 日（金）～ 9 月 4 日（日）**の 10 日間、オンデマンド配信方式で公開することとします。なお、原稿は大会参加者のみが閲覧できる限定ページ上に公開されます。
- 一部の企画セッションにつきましては、大会実行委員会から、**9 月 4 日（日）**にオンライン形式での実施を依頼する場合があります。その際は、ご協力のほど、よろしくお願いします。
- 企画セッションのオーガナイザーを希望する方は、**2022 年 5 月 24 日（火）**までに、企画の目的・司会者・各研究発表演題と発表者の名前および所属をまとめて、大会事務局 ([jart2022@hes.kyushu-u.ac.jp](mailto:jart2022@hes.kyushu-u.ac.jp)) までご連絡ください。指定討論者を置く場合には、その方のお名前も記してください。
- 採否は、応募を受け付けた後 **10 日以内**に通知いたします。原稿の提出などの手続きについては、その際にお知らせいたします。

## 3. 大会参加申込み、および一般研究発表の申込み

### 3.1. 申込み手続き

大会参加、および一般研究発表の申込みは、それぞれの期日（次項参照）までに大会ウェブサイトから行ってください。

### 3.2. 各種申込み期限

一般研究発表の申込み : **2022 年 4 月 25 日（月）～ 5 月 24 日（火）**

一般研究発表の抄録原稿提出 : **2022 年 4 月 25 日（月）～ 7 月 1 日（金）**

大会参加申込み・参加費払込 : **2022 年 4 月 25 日（月）～ 7 月 29 日（金）**

### 3.3. 参加費の払込み

大会参加費の払込みは大会ウェブサイト上で参加申込みを済ませた上で、**2022 年 7 月 29 日（金）**までにお済ませください。ゆうちょ銀行・郵便局から送金する場合は本案内に同封した払込取扱票あるいは郵便局備え付けの払込取扱票を、他の金融機関から振り込まれる場合は金融機関備え付けの振込用紙

を用いて、以下の口座にご送金ください。いずれの場合も手数料は依頼人負担となりますのでご了承ください。

<ゆうちょ銀行・郵便局から>

口座番号： 00190-6-451728

口座名称：日本テスト学会

<他の金融機関から>

店名(店番)：〇一九(ゼロイチキュウ)店(019)

種目・口座番号：当座・0451728

口座名義：日本テスト学会

正会員・法人会員	準会員・学生	非会員(学生除く)
2,000 円	1,000 円	3,000 円

<払込みに関するお願いと注意>

- 振込前に大会ウェブサイトから大会参加申込みを行ってください。
- 必ず参加登録者名で払い込んでください(所属機関等からの振り込みの際は特にご注意ください)。
- 利用明細は領収書の代わりとして必ず保管してください。

#### 4. 抄録原稿の作成・送付

抄録原稿の作成・提出にあたっては「抄録作成要領」を必ずご参照ください。

#### 5. 大会プログラム・論文抄録集

論文抄録集は2022年8月24日(水)までにご指定の住所に郵送いたします。大会ウェブサイト上の参加申込みシステムに郵送先住所の入力欄がございますので、受け取りを希望するご住所をご記入ください。

#### 6. 第20回大会事務局連絡先

日本テスト学会第20回大会実行委員会 E-mail : jart2022@hes.kyushu-u.ac.jp

# 抄録作成要領

原稿提出締め切り 2022年7月1日（金）

抄録原稿はそのまま縮小してオフセット印刷し、論文抄録集に掲載されます。以下の要領に従って原稿を作成されるようお願い致します。原稿は、事前に発表申込みを済ませた上で、大会ウェブサイトの所定のフォームから提出してください。なお、原稿に不備がある場合は、後日お問い合わせすることがございます。

## 抄録原稿作成要領

発表1題につき2頁（本文約2,800字）としますが、さらに2頁に限り超過を認めます。超過の場合は4頁になるように（余白頁を生じないように）してください。A4判用紙を用い、上下に各3cm、左右に各2.5cmの余白を設けてください。発表題目以外は10-12ポイントの文字サイズとします。レイアウトは以下のようにしてください。

### 1 ページ目

- ・ 1行目：発表題目。大きめの文字サイズ（16ポイント程度）で中央に書く
- ・ 2行目：空行
- ・ 3-4行目：発表者の氏名と所属  
所属が大学の場合は、学部名（大学院の場合は研究科名）まで書く。連名発表者で所属が異なる場合は、\* や \*\* などの記号で対応を明確にする。2行で書ききれないときは、5行目以降を適宜繰り下げる。
- ・ 5-6行目：空行
- ・ 7行目以降：本文

### 2 ページ目以降

- ・ 1行目より本文を書く。
- ・ 原稿末尾に連絡先（E-mail アドレス 会員番号）を記入することができる。

## 大会 HP の原稿提出フォームによる抄録原稿の送付方法・注意事項

- (1) 原則としてPDF形式で原稿を作成し、大会ウェブサイトの「原稿提出フォーム」を通じて送信してください。Microsoft Word形式の原稿も受け付けますが、印刷がずれる可能性があることをご承知おきください。LaTeX文書は、Adobe Acrobat や dvipdfm などのソフトウェアでPDF形式に変換して提出してください。
- (2) 図表はあらかじめ電子的に貼り付け、別途作業の必要がないようにしてください。
- (3) 原稿にページ番号は記入しないでください。
- (4) 特殊文字（外字など）は印字されないことがありますので、使用しないでください。
- (5) 本文および図表は白黒印刷されます。
- (6) 原稿は大会ウェブサイトの「原稿提出フォーム」（発表申込みフォームとは別になりますのでご注意ください）から、発表申込みを期日までに済まされた上でお送りください。